

②

二〇二五年度（令和七年度）

福山市立福山中学校入学者選抜せんばつ

適性検査

検査2 問題

（時間 四十五分）

【注意事項】じゆいじゆ

- 1 指示があるまで、中を見てはいけません。
- 2 問題用紙に、受検番号と名前を記入しなさい。
（受検番号は入学者選抜受検票の番号です。）
- 3 二枚の解答用紙に、それぞれ受検番号を記入しなさい。
- 4 問題は、二つあります。
- 5 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。
- 6 解答用紙の※印のあるところには、記入してはいけません。
- 7 問題用紙の余白は、メモに使っても構いません。

受検番号	
第	番

名前

次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。

どんな読書も、結局のところ①「豊かな経験」にはかなわないんじゃないの？本ばかり読んで、実体験が貧しい人間なんていくらでもいるよね？

たしかにおっしゃる通りです。自らの「経験」からこそ、わたしたちは多くを学び取るものです。「本ばかり読んで、実体験が貧しい人間なんていくらでもいるよね？」という言葉は、多くの読書家にダメージを与えているのに十分な言葉です。

先にも少し紹介したジョン・デューイは、「1オンスの経験は1トンの理論に勝る」という有名な言葉を残しています。泳げるようになるためには、どうしたって水の中に飛び込まなければなりません。水泳の理論書だけ読んでいたって、泳げるようにはならないのです。

でもその一方で、次のようにも言わなければなりません。

読書もまた、一つの「経験」であるのだと。そしてそれは、わたしたちの直接的な経験を広げてくれる限りにおいて、きわめて②「豊かな経験」と言うべきなのです。

わたしたちが直接経験できることは、残念ながらごくわずかにすぎません。自分が生まれた国や地域や置かれた環境に、わたしたちは経験も思考も多かれ少なかれ限定されて生きています。どれだけ世界中を飛び回っている人も、この世界の何もかもを見聞きすることなどできません。

でも、もし望むならば、わたしたちはそんな直接経験の世界を読書によって広げることができるのです。

水泳の理論書だけを読んでも、たしかに泳げるようにはなりません。でも、もしわたしたちが、もっと速く、また上手に泳ぎたいと願うなら、その理論書を読む経験は、まさに直接経験を拡張してくれる「豊かな経験」になるにちがいないのです。

もう一点、直接経験については注意しておきたいことがあります。

豊かな直接経験は、たしかに何ものにも代えがたい貴重なものです。でもその経験こそが、時にわたしたちの視野を狭めてしまうこともあるのです。

たとえば、みなさんが運動部に所属していたとして、その顧問の先生だったり監督だったりですが、「自分はこの練習方法で、若い時に地域大会優勝を成し遂げたんだ。だからみんなにもこの練習をみっちりやってもらおう」なんて言ったとしたらどうでしょう？

もちろん、それがうまくいく場合もあるでしょう。でもその練習方法は、もしかしたら、たまたまその先生に合っていただけなのかもしれません。いまの中学生や高校生には通用しないかもしれないし、そもそも、その先生にとってだって、もっといい練習方法があったかもしれないのです。

このような考え方を、わたしは「一般化のワナ」と呼んでいます。

、過度に一般化してしまう思考のワナです。

このような「一般化のワナ」は、日常生活のいたるところに潜んでいます。「学校の先生なんてみんな○○だ」とか、「これだから男(女)は□□なんだ」とか、「日本人は△△だ」とかいった言い方も、文脈によっては「一般化のワナ」に思い切り陥ってしまった言い方です。自分がこれまでに出会ったり見聞きしたりした先生、男性(女性)、日本人の例を、すべての先生、男性(女性)、日本人に当てはまることであるかのように、過度に一般化してしまっているのですから。

読書は、そんなわたしたちの視野をうんと広げる役割を果たしてくれます。

(苫野一徳「未来のきみを変える読書術 なぜ本を読むのか？」による。)

(注) オンス…重さの単位。1オンスは約二十八グラム。

顧問…部を管理したり指導したりする仕事。

一般化…一部のことがらに限って成り立っていることを、すべての場合に当てはめようとする。こと。
陥る…よくない状態に入りこむ。

問題1 (1) に入る言葉を四十字以内で書きなさい。

(2) —線部①・②「豊かな経験」を積むために、あなたはこれからの中学校生活で、どのようなことをがんばっていきたいと考えますか。理由とともに二百五十文字以内で書きなさい。

福山中学校では、毎年オープンスクールが行われています。今回、オーストラリア短期留学に参加した生徒の代表として、みどりさんが現地での様子などをスライドにまとめて発表することになりました。次の資料を読んで、あとの問題に答えなさい。

資料①

オーストラリア短期留学は、充実した日々を過ごすことができ、私の一生の思い出になりました。でも、楽しいことばかりではなく苦労もありました。

今回、私が一番苦労したことは、はっきりと意思表示をすることです。今までは、曖昧な返事をしても何とかなっていました。しかし、留学先では、自分の思いをはっきりと言わないと、自分の意思を伝えることはできませんでした。現地の学校で、テニスをする時間があつた時、「一緒にテニスをしてみる？」と聞かれたのですが、本当はやりたかつたのに、「どっちでもいいよ。」と答えてしまいました。すると誘ってくれた相手もどうしようかと困っていました。結局テニスをするのではなく、見学することになってしまいました。このことによって、自分の気持ちや意思をはっきりと相手に示すことの重要性を実感しました。相手は汲み取ってくれることに期待するのではなく、自分の意思をはっきりと伝え、相手が困らないようにしたいです。

(注) 充実：内容がゆたかであること。 曖昧：はっきりしない。

誘う：いっしょに何かをしようと呼びかける。

汲み取る：おもてに出していない相手の気持ちや事情を、こちらから察する。

資料②

二週間の短期留学で自分から積極的に行動することの大切さを学びました。ホームステイの初日、私はホストファミリーが話している英語が全く分からず、とても不安になりました。上手く話せないから、コミュニケーションをとることも消極的になり、あいさつや「ありがとう」「はい」「いいえ」などの簡単な英語しか話していませんでした。でも、ホストファミリーはジェスチャーを交えながら一生懸命話しかけてくれました。このままでは留学に來た意味がないと思い、三日目に勇気を出して「お血洗いをしましょうか」とジェスチャーを交えながら伝えると、とても喜んでくれました。その日以降、上手く話そうとするのではなく、思いを伝えようと積極的に行動することによって、ホストファミリーや学校交流でも多くの生徒とコミュニケーションをとることができました。積極的に行動することで、こんなに世界が広がるのかと驚きでした。これからの学校生活でも色々なことに勇気を出して取り組んでいきたいです。

資料③

二週間の短期留学は、私にとって、とても貴重な体験でした。多文化社会のオーストラリアですが、人種や背景にとらわれず、お互いのことを知ろうとする姿勢がとても印象的でした。私もそのような姿を見て、今まで常識だと思っていたことが、必ずしもそうではないことに気づきました。例えば、オーストラリアでは夕食を家族みんなで早めに食べる習慣があります。ホストファミリーにその理由を聞くと、家族との時間や健康を大切にしているからだだと教えてもらいました。「こういう考え方もあるんだ」と新しい発見が多く、毎日が刺激的でした。

私には、まだまだ知らないことがあります。今知ることがすべてではないことをこの留学を通して知ることができました。まずは興味を持ち、相手のことを知ろうとする姿勢がお互いを理解し合う第一歩だと学びました。これからも、異なる文化や考え方に対して関心を持ち続け、多くの人と心を通わせ、自分の視野を広げていきたいです。

(注) 刺激的：外部からはたらきかけで、心が動かされる。

1 オーストラリア短期留学

目的 : 語学研修、異文化理解、学校交流
 期間 : 2週間
 学校 : サンライズセカンダリースクール
 宿泊 : ホームステイ

2 現地の様子



3 留学で学んだこと

- ・
- ・
- ・

みんなも福山中学校で
 留学しよう！！

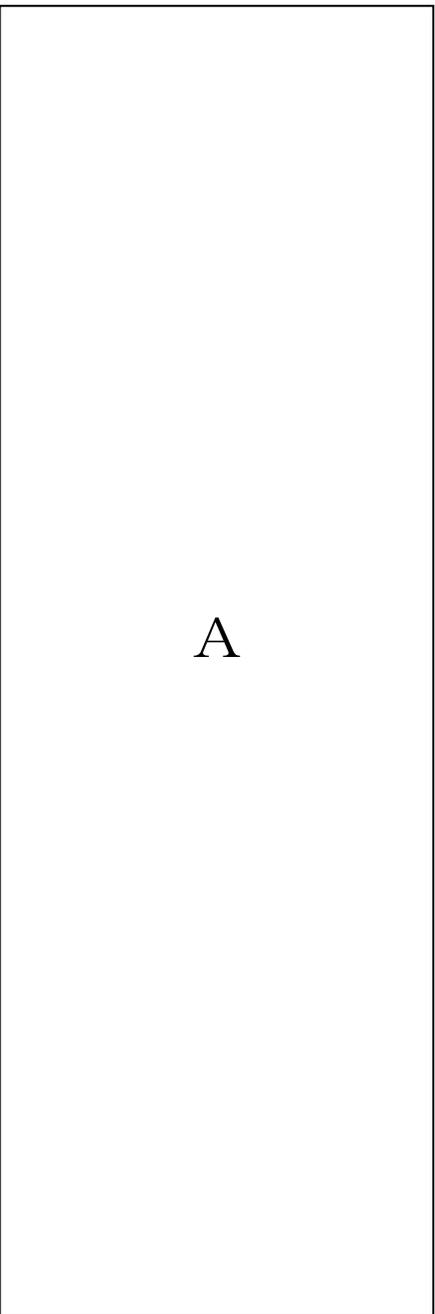
【発表原稿】

これから、オーストラリア短期留学に参加したときの様子などを発表します。

まず、留学の概要を説明します。留学の目的は三つあります。一つ目は語学研修。二つ目は異文化理解。三つ目は学校交流です。二週間現地の学校でバデイとともに行動し、一緒に授業を受けました。また、ホテルに泊まるのではなく、ホームステイをすることで、実際のオーストラリアの生活に触れ、異なる文化について理解を深めることができました。

こちらが、現地での様子です。

次に、留学に参加した生徒が学んだことについて紹介します。



このように、二週間の留学で様々なことを学ぶことができました。英語の学習だけでなく、自分の課題に向き合う、いい機会にもなります。みなさんも、この福山中学校で留学してみませんか。これで、発表を終わります。ありがとうございました。

(注) 概要：全体の要点をまとめたもの。

バデイ：留学のお手伝いをする現地の生徒。

問題2 発表原稿のAに入る部分を、資料①・資料②・資料③の内容をふまえて三百字以内で書きなさい。

これで、検査2の問題は終わりです。